

# あじさい



第 102 号

2019年12月  
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

# 木曾岬干拓地鳥類生息調査報告（2019年）



桑名市 近藤 義孝

## チュウヒの繁殖状況

下の表1に示すように2010年から2012年までの3年間は繁殖に失敗し、干拓地からのひなの巣立ちはありませんでした。その後、2013年1巣で繁殖に成功し、3羽が巣立ちました。2014年1巣2羽、2015年1巣4羽、2016年は1巣3羽のヒナが確認されています。2017年2018年と繁殖に失敗し、2019年は1つがい1羽のヒナが確認されました。

親が餌を探す場所は、今までに報告したのと同じで干拓地北側の木曾川沿いのヨシ原や、干拓地南端の保全区とその北側からメガソーラーまでの干拓地、鍋田干拓地で確認されています。さらに、伊勢湾に浮かぶポートアイランド方向への移動していることが確認されています。ただ、今までもチュウヒの餌を探す行動が確認されていた木曾岬干拓地の伊勢湾岸道路（第二名神）北側では、開発が始まり、今後餌場として利用することができなくなります。今年の繁殖場所は、干拓地の中央よりやや南側のヨシ原でした。

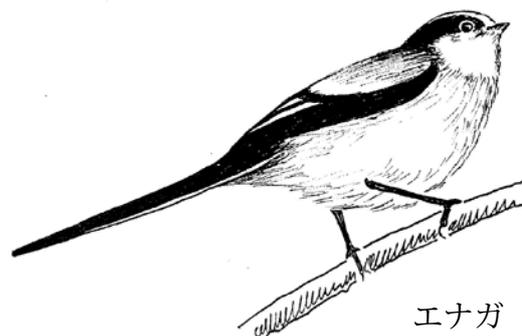
表1：木曾岬干拓地におけるチュウヒの繁殖活動  
(2002年～2019年)

年	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
営巣数	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
繁殖成功巣数	0	3	2	1	1	1	1	2	0	0	0	1	1	1	1	0	0	1
巣立った幼鳥	0	3	2	2	1	1	3	6	0	0	0	3	2	4	3	0	0	1

(ヒナの数を確認できた羽数で、それ以上の可能性もある。)

## 目次

木曾岬干拓地鳥類生息調査報告（2019年）	2
表紙の言葉	2
2019年 立山アルペンルート宿泊探鳥会	4
三重県のタカの渡り 2019年	6
「第11回くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に出展！	7
事務局だより	7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	
第18回 アカアシシギ、ツルシギ、キョウジョシギ	8
カラーマーキングが着けられた鳥を 捜してみよう	14
伊勢湾のミヤコドリはどこから来るのか？	15
野鳥記録	16
カモ カモ カモ	19
探鳥会予告	20
ウタズメ Song Sparrow	21
探鳥会報告（2019年8月～2019年10月）	21
編集後記	24



エナガ

## 表紙の言葉

ルリビタキ

四日市市 三曾田 明

2011年頃から鳥の写真を撮り始めていたけれど、初めの頃は近所の北勢中央公園ばかりだった。それから数年たってようやく活動範囲を広げて県民の森へ。もちろん、それはこの鳥が県民の森にいることを聞いたから。

初めては全然出会えず・・・、しばらくして黒い影（森では黒く見える）を見つけただけでも胸が高鳴った。そしてようやく青い姿をカメラに収めたときにも力いっぱいガッツポーズ。以後は毎年のようにこのアイドルに逢いに行ってます☆

## ねぐら調査の結果

2002年からの調査結果を表2にまとめました。2018年12月15日に実施したねぐら調査では、チュウヒ8羽のねぐら入りと、ミサゴ1羽が観察できました。2019年1月19日の調査では、チュウヒ14羽、ハイイロチュウヒ1羽のねぐら入りと、ミサゴ4羽、ノスリ1羽、ハイタカ1羽、トビ1羽が観察できました。コチョウゲンボウは、メガソーラーが設置されてからは1羽ないし2羽しか観察ができていません。



2019年生まれのチュウヒ幼鳥 2019.09.21

## その他の鳥類生息状況（2016年～2019年10月）

2016年にはアオバト、ウミアイサ、2017年にはアリスイ、ツクシガモなど、2018年にはアジサシ、アマツバメ、アリスイなど、2019年ホオジロガモ、ミミカイツブリなど、多数の種類の鳥類が観察できました。渡りの時期には、多数のツバメやショウドウツバメが採餌場・ねぐら入りの場所として利用しています。

本年度はオオタカが、干拓地中央の樹林帯で繁殖に成功しました。オオタカはチュウヒにとっては脅威となるため、今後のチュウヒの繁殖への影響が懸念されます。

表2：ねぐら調査結果

年	2002		2003		2004		2005		2006	2007	2008		2009		2010	
月	2	12	1	2	12	12	1	12	12	11	12	1	12	1	12	
日	13	7	18	15	12	18	28	10	16	24	20	17	19	16	18	
チュウヒ	16	27	35	19	27	16	14	22	20	12	12	9	15	7	24	
ハイイロチュウヒ	2	6	4	4	3	2	2	2		2	1	1	2	3	1	
コチョウゲンボウ	4	44	25	29	22	8	8	6	6	18	6	9	1	2		
チョウゲンボウ																
オオタカ	1		1	2		2		2	2	1	2	1	1	1		
ハイタカ						7		1								
コミミズク								1								
ノスリ		3	1	1	1	2	3	3	4	5	6	9	3	5	3	
ミサゴ	3	10	9	3	4	6	4	7	9	7	8	10	5	5	2	
ハヤブサ					1	1		1	1							
トビ																
種数	5	5	6	6	6	8	5	9	6	6	6	6	6	6	4	

年	2011		2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018		2019
月	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1
日	15	17	21	15	19	20	18	20	17	18	16	17	21	16	20	15	19
チュウヒ	22	8	11	10	15	5	13	5	7	17	13	6	1	6	6	8	14
ハイイロチュウヒ	6		3	1	2		1		2	2	1	3	1	6	2		1
コチョウゲンボウ	5	1	6	9	10				2		2				1		
チョウゲンボウ	1								1								
オオタカ		1	1	1	1		2		1		2				1		
ハイタカ																	1
コミミズク																	
ノスリ	4	5	1	2	1		1			1	1	1	1	1			1
ミサゴ	5	4	8	7	5		5			4	3	5	6	4	1	1	4
ハヤブサ		1		1					1								
トビ																	1
種数	6	6	6	7	6	1	5	1	6	4	4	6	4	4	5	2	6

## 2019年 立山アルペンルート宿泊探鳥会



四日市市 笹間 俊秋

毎年、恒例となった宿泊探鳥会。今年は富山県の立山にて一泊二日で行われました。立山という事で、ライチョウなどの高山の野鳥や植物が期待できます。しかし、例年、土休日に宿泊探鳥会は行われ

ますが、人気の室堂平という事こともあり休日は混雑する事が予想されるのと、梅雨時期の高山は天候不順で探鳥できないリスクがあるため、8月上旬の平日に行うこととなりました。

### 夕陽や満天の星空

8月7日早朝に松阪から津、桑名を經由して一路、立山をめざします。途中、白川郷自然学校で休憩し、いよいよ立山有料道路へ入ります。美女平ではバスの中から称名滝や杉の大木など美しい風景を堪能しながら、夕方、天狗平の立山高原ホテルへ到着しました。ホテルは立山連峰を間近に眺める絶好のロケーションにあります。皆さんは夕食までの間に美しい夕焼けや周辺にいる野鳥の姿を飽きることなく観ていました。夕食後は少しい雲が掛かっているものの澄み切った星空も観測できましたし、皆で野鳥のビデオを観て楽しみました。



高原ホテルからの美しい夕焼け



2019年宿泊探鳥会参加者 8月8日 朝 立山室堂にて

## 夜明け前から探鳥

8日の早朝、早起きした方はホテル前で朝日と野鳥を観られていました。そこではカヤクグリが巣立ちしたばかりの雛を連れて餌を探す姿やイワツバメも見られました。そして、午前5時には室堂平へ向けて出発します。

## 室堂平での探鳥

室堂平へは10分ほどで到着し、早速遊歩道を歩き探鳥開始です。広がる草原には様々な高山植物が咲き乱れ見頃を迎えています。みくりが池には立山連峰が映り込み美しい風景が堪能できました。

ハイマツ林の間からは、時々、カヤクグリが顔を出して我々を楽しませてくれました。この日は雲一つ無い晴天で、気温が上昇し暑いくらいでした。そのため、お目当てのライチョウは残念ながら日陰に隠れて出てきてくれませんでした。ライチョウを見るのは諦めて、室堂ターミナルまで戻ってみると、平日にもかかわらず登山客でごった返しています。



日の出前の立山連峰

その登山客が置いた荷物の周辺をイワヒバリが徘徊し、何か食べ物はないかと物色しています。我々を全く警戒する素振りもみせません。この野鳥達はライチョウに限らず人を恐れる事は無いようです。



カヤクグリ 2019年8月8日 立山室堂にて



登山客の荷物の周りを徘徊するイワヒバリ

## 最後に

今回は、三重からかなりの距離があったので名残惜しいですが、午前10時には山を降り、昼食後すぐに帰途へつきました。探鳥の時間は短めでしたが、高山と言うこともあり無理は禁物です。かなり駆け足の旅となりましたが、美しい立山連峰の風景は一度見ておく価値はあります。今後、立山へ行く計画がある方は、時間が許せば2泊以上して、ゆっくり過ごすのが理想ではないでしょうか。

## 探鳥会としての記録

2019年8月7～8日(水・木) 7:30～18:30  
白川郷自然学校、天狗平、室堂  
参加者25名(会員25名)

### 【確認種】

カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、トビ、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メボソムシクイ、イワヒバリ、カヤクグリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ウソ、ホオジロ、ドバト 計23種

# 三重県のタカの渡り 2019 年



四日市市 笹間 俊秋

毎年、野鳥の会三重の会員有志によってタカの渡りの観察が行われています。北勢地方では多度山、庭田山、県民の森。伊勢地方では伊勢やすらぎ公園、答志島、相津峠。奈良県のみつえ高原などが観察場所です。

## タカの渡り探鳥会

探鳥会で観察されたタカの数、

9月28日 多度山	サシバ1羽、ハチクマ5羽、ノスリ1羽。
9月28日 答志島	サシバ1羽、ハチクマ3羽、ハヤブサ、ミサゴ、各1羽。
9月29日 伊勢やすらぎ公園	サシバ15羽。
9月29日 みつえ高原	サシバ226羽、ハチクマ3羽、トビ4羽、オオタカ、ハヤブサ、各1羽。
10月5日 相津峠	サシバ1羽。

探鳥会では、どこも低調でしたが、みつえ高原では226羽ものサシバが飛び、タカ柱も見られました。

## 各地方の観察場所

北勢地方では、養老山脈の二ノ瀬峠にある庭田山公園で観察を行いました。ここは濃尾平野が広く見渡すことができます。9月20日ごろから観察していましたが、連日、20羽前後のサシバ、ハチクマが渡って行き、26日にはピークを迎え、100羽以上が渡りました。残念ながらこの日は曇っており、上空高いところを20羽前後のタカ柱が何度も渡っていきました。しかし種類の特定までは困難でした。ここはハチクマの数も多く、サシバと同じぐらいの数が渡って行きました。

伊勢地方では、伊勢周辺の会員により、伊勢神宮外宮の南側にあるやすらぎ公園の霊園奥の高台から伊良湖方面から渡ってくるタカを観察しました。観察は9月25日から10月10日まで行われ、10月2日にはピークを迎え208羽のサシバが観察されました。こちらはサシバが多く、ハチクマは観察されませんでした。(表)

タカの渡りと言うと山の上や高台を連想しますが、木曾岬干拓地探鳥会でも上空を渡るサシバの群れを観察できる時があります。都市部でも誰も気づいてないだけで渡りを見ることは可能でしょう。皆さんの自宅でも秋の澄んだ空を眺めているとタカの渡りを見ることができのかもしれないね。



渡り途中のサシバ

表 伊勢やすらぎ公園でのタカ渡り 2019

場所	伊勢市伊勢やすらぎ公園	
期間	2019年9月25日～10月10日	
調査者	高木正文・中西章・作田久春・廣共子・濱屋勝則・西村泉	
調査時間	8:10 - 10:00	
	サシバ	備考
9月25日	0	
9月26日	0	
9月27日	24	
9月28日	35	7:10 - 10:00
9月29日	11	7:10 - 10:00 探鳥会
9月30日	4	
10月1日	3	
10月2日	208	8:10 - 11:00 (他にクマタカ1)
10月3日	7	
10月4日	43	
10月5日	20	
10月6日	23	
10月7日	—	調査せず
10月8日	0	
10月9日	4	
10月10日	12	
合計	394	

## 「第11回くるくる環境フェスタ IN ベルファーム」に今年も出展！

玉城町 西村 泉



2019年9月23日（月・祝）松阪市の松阪農業公園ベルファームで開催されたイベントに参加しました。前日まで台風による大雨だったので心配していましたが、当日は快晴となり大勢の人でにぎわいました。

今年のイベント体験はストーンペンティングと、松阪地区の中村真理子さんが用意してくれたサプライズ企画。野鳥の会のブースには多くの家族連れが訪れ、人気だったのは中村さんの「髪留めをつくる体験」でした。好きな毛糸を選んで鳥模様のくるみボタンに引っ付け、うまくできないところは家族やスタッフが手伝って仕上げまし



くるくる環境フェスタ IN ベルファーム

た。ストーンペンティングは、子どもたちが選んだ石に図鑑を見ながらアクリル絵の具で色鮮やかな鳥を描きました。

また午後からは40分ほどのミニ探鳥会に10名ほどの家族連れが参加し、初めてのバードウォッチングを楽しみました。

今回は、3人の中村さん（洋子さん、悦子さん、真理子さん）、笹間さんが尽力してくださり無事に終わることができました。



イベント体験中の様子

### 事務局だより

活動の記録（2019年9月～10月）

2019年

- 9/11 鈴鹿市御座ヶ池のソーラー設置計画について業者と話し合い
- 9/15 足見川ソーラー問題で関係者が集まり打ち合わせ
- 9/17 フクロウの巣箱かけ作業
- 9/20 フクロウの巣箱かけ作業
- 9/26 足見川ソーラー問題で県へ出向き担当者と打ち合わせ
- 10/ タカの渡り観察（鳥羽 伊勢）



# シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化

## —連載第 18 回 アカアシシギ、ツルシギ、キョウジョシギ—

津市 今井 光昌

### アカアシシギとツルシギ

足の赤いシギにはアカアシシギ、ツルシギ、キョウジョシギがいます。アカアシシギとツルシギは中型で足と嘴が長い体形のシギらしいシギですが、キョウジョシギは足と嘴も短く、ぐんぐんした体形の小型シギで、顔から胸の羽模様も独特です。ただ、ツルシギ冬羽はアカアシシギに似ていますが、ツルシギ夏羽は全身が黒く、アカアシシギとは明瞭に違います。アカアシシギは旅鳥で渡りの途中に立

ち寄りますが、渡来数は多くありません。松阪市では春の渡来は少ないですが、秋は 2007 年から毎年見られるようになりました。2019 年も 9 月に幼鳥 7 羽が曾原大池で見られました。また、2007 年から 3 年間続けて曾原大池で同一個体と思われる成鳥 1 羽が越冬しました。九州以南では越冬することもあるようですが、三重県での越冬記録はこの 1 個体だけではないかと思えます。

### アカアシシギとツルシギ 夏羽の比較



図 1 アカアシシギ ♂成鳥夏羽 2009.05.19



図 2 ツルシギ ♂成鳥夏羽 2010.05.08

アカアシシギ夏羽は全体に褐色で、頭部からの上面と下面に黒褐色の縦斑が目立ちます (図 1)。ツルシギ夏羽は上面に白斑が点在していますが、頭部からの上面と下面全体が黒く、完全な夏羽では足まで黒くなります (図 2)。キョウジョシギは足が赤い以外、体形も羽模様もアカアシシギとは類似点がありません (図 3)。



図 3 キョウジョシギ ♂成鳥夏羽 2012.06.02

## アカアシシギとツルシギ 翼上面と下面の比較

アカアシシギもツルシギも年齢に関係なく翼下面は白いですが（図4-5）、飛行時にアカアシシギは次列風切と初列風切の一部に幅広い白帯が出ます（図6）。ツルシギは翼後縁に白帯が出ません（図7）。



五主海岸



図4 アカアシシギ 成鳥冬羽 2010.01.13



図5 ツルシギ 成鳥冬羽 2010.02.24



図6 アカアシシギ 成鳥夏羽 2019.05.30



図7 ツルシギ 成鳥夏羽 2019.05.09

## アカアシシギとツルシギ 冬羽の比較

アカアシシギとツルシギの冬羽は似ています。アカアシシギ冬羽の上面は灰褐色ですが、褐色味は夏羽より淡く、頭部から胸の縦斑は目立ちません(図8)。ツルシギ冬羽も頭部から上面は灰褐色です(図9)。アカアシシギ冬羽は眉斑の白色が目先で止

まりますが、ツルシギ冬羽の眉斑は目の後方まで伸びます。アカアシシギはツルシギと比べて体がやや小さく、嘴も少し短く、基部が下嘴だけでなく上嘴も赤いです。ツルシギは下嘴のみ赤いです。



図8 アカアシシギ 成鳥冬羽 2010.02.27



図9 ツルシギ 成鳥冬羽 2010.02.24

## アカアシシギとツルシギ 幼鳥の比較

アカアシシギ幼鳥は上面が褐色で羽縁の白斑が目立ちます(図10)。嘴基部に赤味がない個体もあります。体下面は白く、顔や胸に褐色の縦斑があります。一方、ツルシギ幼鳥は上面が暗褐色で小さな白斑が密にあり、下面は灰褐色で褐色斑が多いた

め、体全体がアカアシシギより暗色に見えます(図11)。ツルシギ冬羽の体下面は白いです。幼鳥の下面は暗色なので、下面が白く見ればアカアシシギ幼鳥、暗色に見ればツルシギ幼鳥と思ってもほぼ間違いないでしょう。



図10 アカアシシギ 幼鳥 2009.09.12



図11 ツルシギ 幼鳥 2007.10.20

## アカアシシギ 幼羽と冬羽

アカアシシギ幼鳥の上面の白斑には個体差があります。図 12 の幼鳥は図 10 の幼鳥より白斑が小さく細い羽縁のように見えます。図 13 の成鳥冬羽も雨覆の羽縁が細いですが羽先に丸味があります。冬羽の羽先は丸味があり、幼羽の羽先は尖っています。

図 14 の矢印の個体は冬羽に換羽中のアカアシシギ成鳥ですが、他の 3 羽は幼鳥です。幼鳥の足はオレンジ色が普通ですが、成鳥の後ろにいる幼鳥は成鳥とほぼ同じ赤さです。足色だけで成鳥と幼鳥を確実に識別することは出来ません。尚、アカアシシギはその名の通り足が赤いですが、足色だけでツルシギとの識別はできません。アカアシシギもツルシギも足の赤味には個体差があるからです。



図 12 アカアシシギ 幼鳥 2009.09.09



図 13 アカアシシギ 成鳥冬羽 2011.10.01



図 14 アカアシシギ 幼鳥と成鳥 2019.09.06

## キョウジョシギ

キョウジョシギはスマートな体形のシギが多い中で嘴と足が短いずんぐり体形です。♂夏羽は頭部から胸が白黒模様で背と翼は黒と赤褐色の羽模様をしています(図 15)。独特の風貌を持つ全長 20 cm程の小型のシギですが、数羽から数十羽の群れで

いることが多いので、体は小さくても海辺で目立つ存在でもあります。稀に 100 羽以上の群れを見ることがあります。伊勢湾沿いの海岸で 10-20 羽が毎年、越冬しています。

## キョウジョシギ 成鳥夏羽 雌雄

♂夏羽の頭部の白色部や背と翼の赤褐色部が、♀夏羽では暗褐色になります(図 15-16)。



図 15 キョウジョシギ ♂成鳥夏羽 2018.05.14



図 16 キョウジョシギ ♀成鳥夏羽 2017.05.21

## キョウジョシギ 第1回冬羽と成鳥冬羽

キョウジョシギ冬羽は雌雄とも頭部も上面も褐色味を帯び、雌雄の識別は困難になります。また、第1回冬羽と成鳥冬羽は似ています。図 17 の第1回

冬羽と図 18 の成鳥冬羽は同日撮影ですが、第1回冬羽は雨覆と三列風切に擦れた幼羽が残っているのに対し、成鳥冬羽は雨覆に擦れが見られません(図 17-18)。



図 17 キョウジョシギ 第1回冬羽 2011.01.11



図 18 キョウジョシギ 成鳥冬羽 2011.01.11

## キョウジョシギ 幼鳥

幼羽の方が冬羽より擦れが早く進みます。尚、成鳥の羽先は丸味があり幼羽の羽先は尖り気味です。図 19 の幼鳥は冬羽と似ていますが、上面の暗色味が強く、バフ色と白色の羽縁が明瞭です。幼鳥も雌雄の識別が困難です。

## キョウジョシギ 飛翔時の上・下面

キョウジョシギは飛翔時に、肩羽・背・尾羽の基部の白色部が雌雄や年齢にかかわらず目立ちます(図 20)。



図 19 キョウジョシギ 幼鳥 2018.08.28

下面も年齢・雌雄を問わず白いです(図 21)。



図 20 キョウジョシギ 成鳥夏羽 2013.04.22



図 21 キョウジョシギ 成鳥夏羽 2013.05.18

## 最後に

夏羽のキョウジョシギは白・黒・赤と目立つ羽模様をしているので、小型であっても海岸や河口で容易に探せますが、冬羽は地味なので見逃してしまうかも知れません。越冬している環境は、砂利の多い

海岸やテトラポットのある海岸が多く、保護色になっています。冬羽の探鳥は保護色に惑わされずよく見るのが肝要です。



図 22 越冬 (5 個体ともキョウジョシギ成鳥冬羽) 2012.02.18

## カラーマーキングが付けられた鳥を捜してみよう

四日市市 三曾田 明



環境省が山階鳥類研究所に委託した標識調査では番号の付いた金属製の足環（あしわ）を鳥に付けています。しかし、野外で番号を読み取るのは不可能です。そこで、野外でも簡単に識別できるカラーマーキングと呼ばれるものを鳥に付ける場合があります。トキとコウノトリのように人の管理下で繁殖をしている鳥の色付きの足環、ハクチョウやガンの首環、シギ、チドリのフラッグなどです。

でも、実はこれ以外にも様々な調査目的のために付けられています。今回、ミヤコドリとユリカモメ

のカラーマーキング付きの個体の報告があったので、これを機に、三重県でも観察の可能性があるものを中心に紹介します。全国のバードウォッチャーからの報告で、鳥の分散や移動を知ることができます。

なお、「日本鳥類標識協会」のホームページ <http://birdbanding-assn.jp/> には「カラーマーキングの部屋」というページがあり、今回まとめた以下の表の素となる情報はそこから得ています。最新の情報、具体的な連絡先・報告事項などはそちらを参照してください。

種	マーキング発見時の連絡先	総標識数	地域
シギ・チドリ	山階鳥類研究所	13万以上	オーストラリア(約12万)、日本(約2万)、他全10ヶ国ほど
ガン類	環境省生物多様センターのHP中のインターネット自然研究所	2000	ロシア・日本(マガン、ヒシクイ)、ロシア(ハクガン、カリガネ、コクガン、シジウカラガン)
シロチドリ	茂田 良光 / 佐藤 達夫 (行徳野鳥観察舎) / 守屋 年史 (バードリサーチ)	-	千葉
カモ類	片岡 宣彦	-	兵庫
コウノトリ	兵庫県立コウノトリの郷公園	180	兵庫
カワウ	福田道雄 (カワウ標識調査グループ)	-	中部(愛知・鶴の山、愛知・弥富野鳥園、三重・石垣池など)、他
ウミネコ	松丸一郎 (都市鳥研究会)、澤 祐介 (日本鳥類標識協会)、富田 直樹 (山階鳥類研究所)	-	東京
セグロカモメ	佐藤 達夫 (行徳野鳥観察舎)	23	千葉
ユリカモメ	和田 岳 (大阪自然史博物館) / 澤 祐介 / 佐藤 達夫 (行徳野鳥観察舎)	-	京都、兵庫、大阪、福岡、東京、千葉、カムチャツカ
オオバン	橋本 啓史 (名城大学農学部)	9	滋賀
サギ類	佐藤 文男 (山階鳥類研究所) / 白井 剛 (東京周辺のアオサギ) / 能田 由紀子 (京都周辺のコサギ) / 大迫 義人 (兵庫のダイサギとアオサギ)	-	茨城・千葉・愛知・岐阜・福井・石川・山口・福岡・鹿児島、東京、京都、兵庫
トキ	トキ交流会館	431	新潟佐渡市

上記の他にも、ケリ、カンムリウミスズメ、コブハクチョウ、ミサゴ、プッポウソウ、ジョウビタキ、モズ、ハイタカ、チョウゲンボウ、コムドリ、カラス類にカラーマーキングが付けられている。



ユリカモメ 2019年10月15日 三重郡川越町 高松海岸  
 撮影：鈴木 健真  
 カラーリング：青JU 装着地：千葉(2014/11/30)



ミヤコドリ 2019年10月1日 松阪市 五主海岸  
 撮影：笹間俊秋  
 フラッグ：黄T7 装着地：ロシア(カムチャツカ)



## 東アジア飛行ルートของミヤコドリ

ミヤコドリ (*Haematopus ostralegus*) Eurasian Oystercatcher はユーラシア大陸とその周辺の島嶼に広く分布する。日本に飛来する個体は東アジアの飛行ルートに属して、その数はおよそ 10,000 羽と推定されている。日本では東京湾の三番瀬とその周辺に約 600 羽、伊勢湾に約 100 羽が飛来し、越冬する。それ以外ではまとまった数のミヤコドリは見られていない。一方韓国西岸の干潟では約 5000 羽のミヤコドリが観察され、また、西岸の島嶼では約 300 つがい繁殖しているという (Moore, N. 2006)。それとは別に、ロシアカムチャツカ半島でも繁殖しているとされているが、場所など詳細は不明である。それ以外の東アジアでの繁殖地は知られていない。

越冬地以外では春に北海道東部の、コムケ湖と風蓮湖で少数のミヤコドリが観察されており、これはカムチャツカへ移動する個体ではないかと思われる。するとカムチャツカが日本のミヤコドリの繁殖地であろうか？



## シギチドリのフラッグ

今回黄色と黒のフラッグの付いたミヤコドリが伊勢湾で発見された。また、未確認の情報では同じようなフラッグの付いた別の個体が東京湾でも発見されたということである。フラッグの色は東アジア飛行ルートの様々な地域に割り振られ、互いに区別できるようにされている。詳細は Australian Wader Group のホームページに PDF ファイルがあり、閲覧できる。それによると今回見つけられたフラッグはカムチャツカで付けられたものらしい。山階鳥類研究所からの情報によるとロシア人研究者のチームがフラッグを付けているらしい。

しかし、カムチャツカのどこで、いつ、だれが付けられたものか。現在のところ不明である。

## カムチャツカの干潟

カムチャツカの西岸、すなわちオホーツク海側にはシギ・チドリがあつまるハイルソバ Khairusova 川河口とモロシェチナヤ Moroshechnaya 川河口にそれぞれ干潟がある。前者では 15,000 羽のオバシギの群が観察されている。また、後者では秋に 600 羽のミヤコドリが観察されている (Dorofeev, D.S. & Kazansky, F.V. 2013)。この 2 つの河口はシギ・チドリの東アジア飛行ルート内の中継地として非常に重要だと思われる。ただし、ミヤコドリの繁殖するのは干潟ではなく、海岸に近い、草地である。また、韓国西岸では岩礁で繁殖しているようである。日本で見られるミヤコドリがどこで繁殖し、どのルートを通って渡るのかはさらにフラッグによる研究、あるいは GPS などで、直接渡り経路を追跡する手法による解明が待たれる。

## 参考文献

Dorofeev, D.S. & Kazansky, F.V. 2013. Post-breeding stopover sites of waders in the estuaries of the Khairusovo, Belogolovaya and Moroshechnaya rivers, western Kamchatka Peninsula, Russia, 2010-2012. Wader Study Group Bull. 120: 119-123.

Melville, D.S., Gerasimov, Y.N., Moore, N., Yat-Tung, Y & Bai, Q. 2014. Conservation assessment of Far Eastern Oystercatcher *Haematopus [ostralegus] osculans*. International Wader Studies 20: 129-154

Moore, N. 2006. South Korea's shorebirds: A review of abundance, distribution, threats and conservation status. Stilt 50: 62-72.

## 野鳥記録 (2019年08月11日から2019年10月20日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
アオバト	4	8月17日	鈴鹿川派川	雄	今西 純一	1
オオアジサシ	6	9月 3日	津市香良洲町 香良洲海岸		笹間 俊秋	2
オオソリハシシギ	4	9月11日	四日市市楠町 鈴鹿川派川	幼鳥	安藤 宣朗	3
コサメビタキ	1	9月14日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	4
エゾビタキ	2	9月20日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	5
ホトトギス	1	9月20日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	6
アオバト	5	9月20日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	7
オシドリ	1	9月21日	四日市市 北勢中央公園	雄	山神 勝治	8
アオバト	2	8月 6日	川越町	雄・雌	山神 勝治	9
シマアジ	2	9月11日	四日市市 鈴鹿派川	不明	山神 勝治	10
クロハラアジサシ	6	8月19日	桑名市	不明	山神 勝治	11
タマシギ	5	10月 2日	鈴鹿市	雄と幼鳥4羽	笹間 俊秋	12
セイタカシギ	6	10月 5日	鈴鹿市		今西 純一	13
レンカク	1	10月 6日	多気郡多気町 天啓池	雄 (幼鳥?)	濱屋 勝則	14
ヨシゴイ	1	10月10日	多気郡多気町		前田 聡・シズコ	15
サメビタキ	1	10月20日	四日市市 垂坂公園		今西 純一	16

### 脚注

1. 雄ばかり4羽がブロックに止まっていた。鈴鹿川派川でアオバトを観察したのは初めてです。
2. 干潮時に沖でウミネコやカワウが休んでいたのを確認するとオオアジサシが6羽混じっていました。
3. 久しぶりにこの場所で出会えた。
4. 1羽だけでした。例年より数が少ないように思います。
5. キビタキとよくけんかしていました。
6. ツツドリかと思っていましたが、飛んだときに写った下尾筒に斑が見られないためホトトギスとしました。垂坂公園では初めて観察しました。
7. 上空を西に通過していきました。垂坂公園では声を聞くことはありましたが姿を確認したのは初めてです。
8. こんなに早く見たのは、初めてでした。
9. —
10. こんなに早く見たのは、初めてでした。
11. 近くへ飛んできてくれてラッキーでした。
12. 水の張ってある水田で雛を4羽連れて歩いていました。雛は最近生まれたようで、まだ飛べないので雄が連れて歩きながら餌を捕って雛にあげていました。
13. 今年で4年目になります。昨年は11月3日に初認でしたので1ヶ月早い記録となりました。越冬してくれれば去年の工事は影響なしだったと言えそうです。
14. 水草の上を歩き回り採餌に夢中でした。
15. 10月14日終認日、初認であり感動したので投稿させていただきました。
16. 尾羽を半分失っていましたがフライングキャッチで虫を捕っていました。



オオソリハシシギ：安藤 宣朗



エゾビタキとキビタキ：今西 純一



ホトトギス：今西 純一



ホトトギスの下尾筒：今西 純一

シマアジ：山神 勝治



クロハラアジサシ：山神 勝治

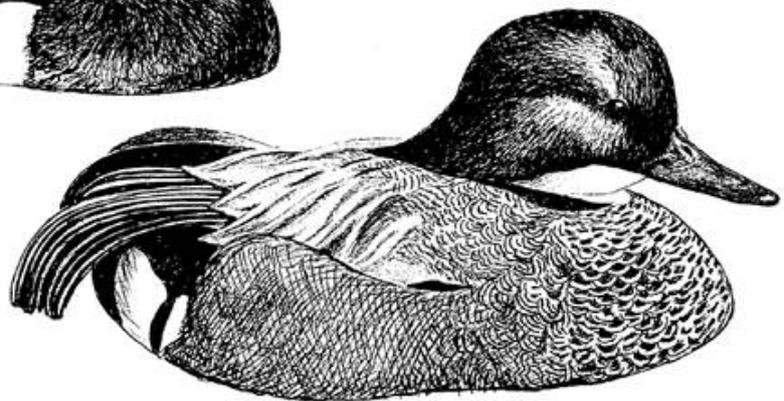
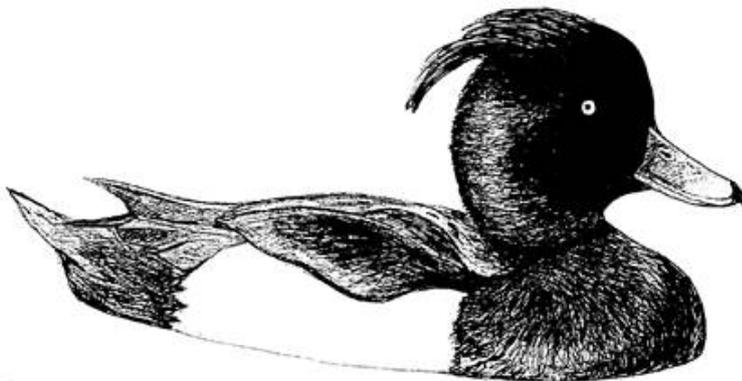
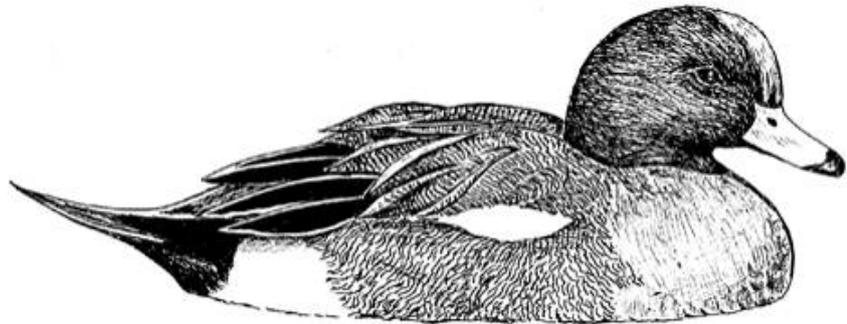
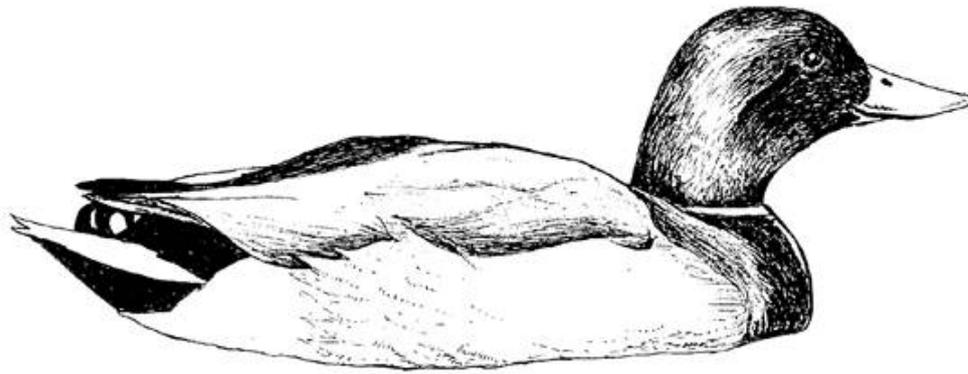


タマシギ：笹間 俊秋



ヨシゴイ：前田 聡・シズコ

カモ カモ カモ



田中さんのイラストから、上からマガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ヨシガモ。  
今にも逃げてしまいそうな鴨たちです。

絵： 名張市 田中 豊成

## 探鳥会予告（詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください）



- 12月15日(日) 横山池・安濃ダム探鳥会  
開催地/津市芸濃町 横山池・安濃ダム  
集合/10:00 津市芸濃文化センター駐車場  
解散/12:00 安濃ダム
- 12月15日(日) 磯部川水系探鳥会  
開催地/志摩市磯部町穴川 穴川~迫間  
集合/9:30 志摩市磯部町穴川公民館  
解散/11:30 集合地
- 12月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
集合/9:00 愛知県弥富野鳥園  
解散/12:00 集合地
- 1月12日(日) 上野森林公園探鳥会  
開催地/伊賀市下友生松ヶ谷1 三重県上野森林公園  
集合/9:30 上野森林公園ビクターコテージ  
解散/11:30 集合地  
共催/上野森林公園・三重県環境学習情報センター  
備考/参加予約必要 上野森林公園 (0595-22-2150)
- 1月19日(日) 肱江川探鳥会  
開催地/桑名市多度町猪飼 肱江川周辺  
集合/10:00 肱江川 猪飼橋 南詰め  
解散/12:00 集合地
- 1月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、12月22日と同じです。
- 1月26日(日) 大淀海岸探鳥会 小雨決行!  
開催地/多気郡明和町 大淀海岸周辺  
集合/9:30 大淀小学校前 業平の松公園  
解散/11:30 集合地
- 1月28日(火) 木曾三川探鳥会  
開催地/桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川・木曾川  
集合/9:00 桑名市 多度大社前駐車場付近  
解散/12:00 集合地
- 2月9日(日) 鈴鹿青少年の森探鳥会 小雨決行!  
開催地/鈴鹿市 県営鈴鹿青少年の森  
集合/10:00 管理事務所前(プレハブの建物)  
解散/12:00 集合地  
共催/鈴鹿市環境政策課  
備考/参加予約必要 鈴鹿市環境政策課 (059-382-7954)
- 2月15日(土) 丹生探鳥会  
開催地/多気郡多気町 丹生  
集合/9:30 ふれあいの館(丹生大師前)  
解散/11:30 集合地
- 2月16日(日) 両ヶ池探鳥会  
開催地/いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園  
集合/9:30 両ヶ池公園道路脇 駐車場  
解散/11:30 集合地
- 2月16日(日) 五十鈴川周辺探鳥会  
開催地/伊勢市浦田町 五十鈴公園  
集合/10:00 浦田町バス停  
解散/11:30 現地
- 2月22日(土) 三滝川かんさつ会 小雨決行!  
開催地/三重郡菟野町 三滝川河川敷  
集合/9:30 大羽根グランド駐車場  
解散/12:00 頃 集合地
- 2月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、12月22日と同じです。
- 2月23日(日) 津偕楽公園探鳥会  
開催地/津市広明町 津偕楽公園  
集合/10:00 津偕楽公園駐車場  
解散/11:30 集合地
- 3月1日(日) 石垣池探鳥会 小雨決行!  
開催地/鈴鹿市石垣3丁目 石垣池  
集合/10:00 石垣池駐車場横  
解散/12:00 現地
- 3月8日(日) 海辺の鳥を観察しよう  
開催地/三重県総合博物館 及び 津市高洲町 安濃川河口  
集合/9:30(予定) 三重県総合博物館 2階  
エントランスホール  
解散/12:00(頃) 現地  
共催/三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター  
備考/参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283
- 3月10日(火) 海蔵川で鳥見ing!  
(バードウォッチング) その4 小雨決行!  
開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い  
集合/9:45 海蔵川代官橋 北詰  
解散/12:00 集合地
- 3月21日(土) 宮リバー公園探鳥会 初心者歓迎  
開催地/度会町 宮リバー公園周辺  
集合/8:30 バザールわたらい前 駐車場  
解散/11:30 集合地
- 3月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!  
内容は、12月22日と同じです。

## ウタスズメ Song Sparrow (*Melospiza melodia*)

2019年10月6日、東紀州で行われた「市木川及び水田探鳥会」に参加された、和歌山県支部会員の浜口記久子さんから串本町で撮った鳥の判定を依頼されました。私はホオジロ科であることは分かりましたが、日本のホオジロ科の中には該当する個体は見当たらず、一番近い種としては「クロジ」の雌か幼鳥ではないかとお答えしました。後日、浜口さんから「ウタスズメ」の様だと連絡をもらいました。ウタスズメは北米に普通にいる

ホオジロ科ですが、日本では過去4例しか確認されていない種であることが分かりました。

浜口さんは2019年3月に亡くなった中井節二さんの友人で、中井さんが去年までリーダーをされていた関係で市木川探鳥会へ参加していただきました。今回の事例から、やはり東紀州は珍鳥の宝庫であることが分かります。皆さんにも機会があれば東紀州を探鳥されることをお勧めします。

(笹間 俊秋)



撮影：和歌山県支部会員 浜口 記久子

## 探鳥会報告 (2019年8月～2019年10月)



### ●損斐川ツバメのねぐら入り探鳥会

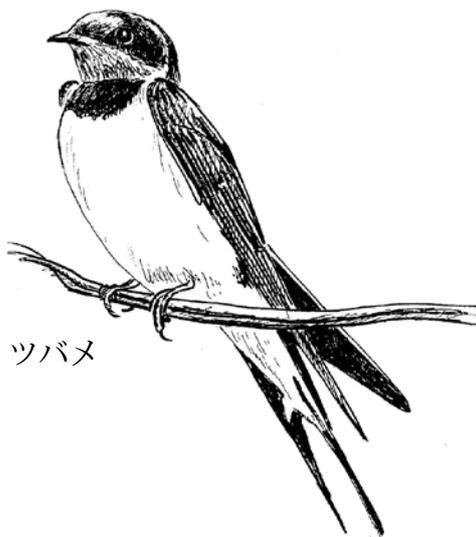
2019年8月17日(土) 17:00～19:00

桑名市 多度町福永

近藤義孝 笹間 俊秋 参加者22名(会員9名)

カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計17種

前々日に台風が通過して、前日の下見ではヨシ原が穂先しか見えないほど水量が多くなっていました。スズメはたくさん確認できましたが、ツバメは10羽単位でしか確認できませんでした。



ツバメ

### ●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2019年8月25日(日) 9:00～11:30

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者14名(会員12名)

マガモ(2)、カルガモ(17)、カイツブリ(1)、キジバト(2)、カワウ(50)、アマサギ(3)、アオサギ(6)、ダイサギ(15)、チュウサギ(23)、コサギ(4)、アマツバメ(1)、コチドリ(2)、シロチドリ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、ミサゴ(7)、トビ(3)、チュウヒ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(40)、ツバメ(200)、セッカ(10)、ムクドリ(10)、スズメ(30)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(2)、ドバト(11) 計32種

先月は観察できなかったチュウヒも出現してくれました。まだまだ厳しい残暑の中で、涼風が吹きました。

## ●五主探鳥会

2019年9月8日(日) 9:30～11:15

松阪市五主海岸

吉崎 幸一 中村 洋子 参加者 19名(会員 16名)

カルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ミヤコドリ、セイタカシギ、チュウシャクシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ウミネコ、ミサゴ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ドバト 計 25種

台風の進路により前日まで開催が危ぶまれたが、台風の進路はそれ、風や波の穏やかな開催となった。河口では、キョウジョシギ、キアシシギの他はカワウやサギ類のみであったが、離れた所に一羽のミヤコドリが観察できた。堤防の内側の池で、最近飛来したアカアシシギが鳴きながら飛び回っていた他、セイタカシギや常連のアオアシシギ等が見られた。

## ●海蔵川で鳥見 ing!(バードウォッチング) その2

2019年9月10日(火) 9:45～11:30

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者 8名(会員 6名)

カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、カワセミ、ハシボソガラス、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計 20種(他にシギ・チドリの仲間 1種)

良すぎるくらいの天気でのこの時期にしては大変暑く、真夏日の中スタートしました。気温が上がりすぎているためか、鳥の姿はもとより鳴き声さえあまり聞こえず、涼しげに水に潜るカワウを眺めながら右岸側に移動しました。川面にはカイツブリ、バンが泳いでいましたが、カルガモは他方へ遠征しているようで、ほとんど姿がみられませんでした。ここでようやく海蔵川のマスコットのカワセミが甲高い鳴き声と共に水面すれすれのところを飛んできて綺麗な姿を見せてくれました。

田んぼにはチュウサギ、コサギが餌をついばみ、上空にはここでは珍しくコシアカツバメが南方への帰り支度を始めているように飛び交う姿を見ながら、熱中症のリスクを考えいつもより少々早くの解散となりました。

## ●木曾岬干拓地探鳥会探鳥会

2019年9月22日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

笹間 俊秋 参加者 13名(会員 10名)

カルガモ(3)、キンクロハジロ(1)、キジバト(6)、カワウ(3100)、アオサギ(13)、ダイサギ(10)、チュウサギ(5)、コサギ(3)、コチドリ(6)、クサシギ(1)、イソシギ(6)、ミサゴ(11)、トビ(4)、チュウヒ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、コゲラ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(5)、ヒバリ(2)、ショウドウツバメ(10)、ツバメ(100)、ヒヨドリ(1)、セッカ(1)、ムクドリ(8)、ノビタキ(5)、イソヒヨドリ(1)、キビタキ(1)、スズメ(90)、キセキレイ(2)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(2)、カワラヒワ(1)、ホオジロ(1)、ドバト(70) 計 37種

早朝まで雨が降っていましたが、開始時刻までには上がり、時々薄日が漏れる天気でした。

日が差してくると上昇気流が発生するのか、何度かタカ柱ができていました。周辺に来ているミサゴが主でしたが、ノスリやハイタカも混じっていました。田んぼにはノビタキも確認でき、渡りの季節が来たと実感できました。

干拓地では、少しだけチュウヒの幼鳥も確認することができました。

## ●多度山タカ渡り探鳥会

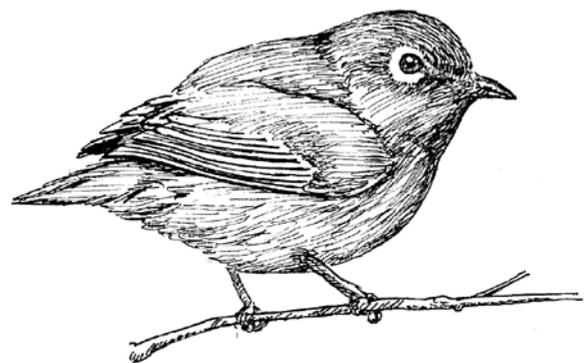
2019年9月28日(土) 9:00～12:00

桑名市 多度山3合目

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 9名(会員 8名)

カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ハチクマ、トビ、サシバ、ノスリ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、カワラヒワ 計 18種

曇り空で、タカ渡りには あいにくの天気でしたが、サシバ1羽、ハチクマ2羽(+探鳥会終了後3羽)、ノスリやトビ出てくれました。



メジロ

### ●香良洲海岸探鳥会

2019年9月28日(土) 13:00～15:00

津市香良洲町 香良洲海岸

今井 光昌 今井 鈴子 参加者 15名(会員 14名)

カルガモ、キジバト、オオミズナギドリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ダイゼン、ミヤコドリ、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、ソリハシシギ、オバシギ、コオバシギ、ミユビシギ、トウネン、ウミネコ、オオアジサシ、ミサゴ、トビ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、計 32種

雲行きが怪しく、沖から吹く南東の風、しかも河口でカイトサーフィンをしている人がいる。今日は期待できないな一と思っておりましたが、水鳥と松林公園の鳥を合わせ 32種出てくれました。

秋の渡りで渡来してきたミヤコドリが 30数羽、オバシギが 20数羽、オオソリハシが 10数羽、他にダイゼンやコオバシギ、ミユビシギ、トウネン、チュウシャクシギ、オグロシギ等、シギ、チドリは種も数も多かった。

干潟の先端にオオアジサシもいましたが、遠かったのが残念でした。

### ●答志島タカ渡り探鳥会

2019年9月28日(土) 7:30～11:30

鳥羽市 答志島

小坂 里香 西村 泉 参加者 8名(会員 6名)

キジバト、カワウ、アオサギ(4)、ダイサギ(1)、ウミネコ(多)、ミサゴ(1)、ハチクマ(3)、トビ(多)、サシバ(1)、ハヤブサ(1)、ハシボソガラス(多)、ヒヨドリ(6~8 小声)、メジロ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ 計 17種

参加申込みが少なく、入会予定ということで、会員紹介の 2名の参加を了承しました。

予定通りに答志港に上陸、北端の海水浴場まで歩く道すがら、トビ、ウミネコ、イソヒヨドリ等を観察。海水浴場(ブルーフィールドの木製デッキ)でのんびりと定点観測。待てどくらせど、お目あての「川の流れのような」ヒヨドリの群れは現れず、1ケタの少群の通過のみ。しかしハチクマ 3羽、サシバ 1羽が何とか通過、ミサゴも姿を見せました。

また、居付きと思われるハヤブサが何度もソアリング、急降下と大サービスしてくれ、カラスやトビとのバトルなども見られて一同喜びました。

### ●伊勢タカ渡り探鳥会

2019年9月29日(日) 7:00～11:00

伊勢市 伊勢やすらぎ公園

中西 章 高木 正文 参加者 10名(会員 10名)

キジバト、ハチクマ、サシバ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、エゾビタキ 計 12種

前日の天気予報では雨でしたので、開催が危ぶまれましたが、当日は雨が上がり、雲は低いものの 9時以降は晴れ間もみえてきたので、期待が高まりました。

しかし、前日の雨の影響か、サシバの出足は鈍く、結局合計 15羽と低調な数字に終わりました。

### ●みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会

2019年9月29日(日) 9:00～12:00

奈良県宇陀郡御杖村菅野 みつえ高原牧場

玉田 浩司 田中 豊成 参加者 8名(会員 5名)

キジバト、アマツバメ、ハチクマ(3)、トビ(4)、オオタカ(1)、サシバ(226)、アオゲラ、ハヤブサ(1)、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メボソムシクイ(SP)又はオオムシクイ(2)、メジロ、イソヒヨドリ、エゾビタキ(2)、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、計 26種

前日夜まで悪天候の予報でしたが、当日は暑いくらいのお天気となりました。

現地へ着くなり、アオゲラが木の天辺で声を聞かせてくれ、エゾビタキ 2羽がさかんにフライキャッチ。上空に上昇気流が湧き出すと、次々にサシバがはるか遠くの山から現れました。9時 45分頃から終了時間まで、たいくつする時間が無いくらいタカが渡っていきました。時には 20羽以上の群れになり、タカ柱も見せてくれ大満足。

アマツバメも数多く姿を見せてくれ、終了前にはオオタカがやって来て、木にとまってくれました。当地としては、かなり数の多いタカ渡り観察となりました。

### ●相津峠タカ渡り探鳥会

2019年10月5日(土) 8:30～11:30

松阪市飯南町 相津峠

西村 四郎 中村 洋子 参加者8名(会員8名)

キジバト、ハリオアマツバメ、トビ、サシバ、クマタカ、モズ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、イソヒヨドリ、アトリ、カワラヒワ 計16種

集合場所の道の駅「茶倉」でサシバが舞っていました。東の方へ渡って行きました。この日見たのは結局これだけで、その日その日によってルートはまちまちです。(前日は相津峠を通過しました。)

途中でちびイノシシと遭遇したりして、相津峠まで移動し、感謝の丘に登りました。早速クマタカが、すぐ下を飛んで、すっと隠れましたが、しばらくすると今度はペアで現れました。高い所や、遠く、近くを飛んでくれて、しばらくは楽しませてくれました。

その後はなかなか現れず、すごく遠くを飛ぶのも視界に入りましたが、種まではわからず、終了となりました。

小鳥類は、マヒワ、ハリオアマツバメ、ツバメなどの渡りを観察できました。

### ●市木川河口及び水田探鳥会

2019年10月6日(日) 9:00～12:00

南牟婁郡御浜町市木 市木川河口

共催団体/御浜町・環境省近畿地方環境事務所・熊野自然保護官事務所

笹間俊秋 参加者18名(会員5名)

ヒドリガモ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コチドリ、タシギ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ホオジロ、ドバト 計25種

朝から晴天に恵まれ探鳥日和となりました。

水田ではノビタキが確認できましたが、この日は10月にしては気温が高く暑くなりました。そのためか例年見られる猛禽類や渡り鳥は少なめでした。それでもノスリやヒドリガモなども観察できました。



ハチクマ

### 編集後記

アマゾンのスズドリが世界一鳴き声の大きな鳥として紹介されていた。その鳴き声は125デシベルに達するそうで、それを例えればロックコンサートでスピーカーの前にいるぐらいの声らしい。その動画がYouTubeにアップされていたので聞いてみると確かに金属音みたいで相当なインパクトのある鳴き声である。この鳴き声が聞こえたらすぐにその鳥を見つけられるであろう。興味のある方は「White Bellbird」で検索してみるとすぐに出てくると思います。

鳴き声と言えば、編集しているこの時期は続々と冬鳥が到着しています。今回の表紙であるルリビタキも到着して森の中で鳴き始めています。この冬は何回この鳥に出逢えるだろう。

(T.S.)

しろちどり 102号

2019年12月1日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：三曾田 明

カット：田中 豊成・平井 正志

編集：平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所：日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市